

名匠シャイーが切り拓く、
ゲヴァントハウスの新たな時代

ライブツィエ・ゲヴァントハウス管弦楽団

指揮：リッカルド・シャイー

RICCARDO CHAILLY, Gewandhauskapellmeister

メンデルスゾーン：

交響曲第5番「宗教改革」

ブルックナー：

交響曲第4番「ロマンティック」



2009

10/28 (水) PM6:45開演 **愛知県芸術劇場コンサートホール**
S¥20,000 A¥17,000 B¥12,000 C¥8,000 学生¥3,000 (税込)
主催：中京テレビ放送 企画・運営：中京テレビ事業

お問い合わせ
お申込み **中京テレビ事業 ☎052-957-3333**

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F(旧有楽河合ビル) (月～金 AM9:30～PM5:30/土日・祝日休業)

<http://cte.jp> ★インターネットからもお申込み頂けます!★

学生券

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様をお願い致します。

※曲目・出演者等変更になる場合がございます。予めご了承ください。※未成年児童のご入場はご同様の場合でもお断り致します。

チケット発売所

チケットぴあ (Eコード: 321-003) 0570-02-9999 イープラス eplus.jp
愛知芸術文化センター-PG 052-972-0430 ローソンチケット (Eコード: 45269) 0570-084-004
栄プレチケ92 (Eコード: PG) 052-953-0777 中日サービスセンター(中日ビル) 052-263-7282 他

現代に生きる伝統を聴く

「リッカルド・シャイー」ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団に寄せる限りない期待感

イタリアの名指揮者シャイーの新しいポストが、2005年秋からスタートしたライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団のカペルマイスターである。世界最古の歴史をもつこのオーケストラは、19世紀にあってはかのメンデルスゾーンが監督を務め、20世紀にあってはフルトヴェングラー、ワルターといった巨匠たちが統率、文字通りドイツ＝オーストリア音楽の中心的担い手となってきた。即ち、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の歩みは、まさにヨーロッパの音楽史、演奏史そのものといえる存在感と重みを持つのであり、このコンサートを聴くことはただ通常のコンサート体験とは次元を異にする意味と価値があるのである。

シャイーも着任時、「メンデルスゾーンの後任ですから」と眼を輝かせ、また責任の重さに身を引き締めていたが、古いドイツの伝統とイタリアの巨匠とのコンビネーションは世界が注目する成果を挙げ続けている。それは、「古き酒袋に新しき酒をいれ」といった言葉にも似た新しい演奏の時代の始まりを宣言するものであり、聴き手は伝統が育む味わいの豊かさとそこに注ぎ込まれる新しい生命の輝き、その両サイドを堪能する贅沢に浸るのである。しかも、シャイーは年齢的に50代半ばと充実の時にあるし、元来、じっくりと腰を据えて彫りの深い、また内的燃焼度の高い演奏を作り出すマエストロであるだけに名演への予感は限りなく強い。

円熟のシャイーのもと、名門中の名門オーケストラがどのような音の華、いや伝統の華を咲かせるのか、期待感は尽きることがない。

諸石幸夫(音楽評論家)



ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団 GEWANDHAUSORCHESTER LEIPZIG

1743年ライプツィヒの商人たちがコンサート協会を設立、音楽家の支援を始めた。1781年にコンサート会場を織物会館(ゲヴァントハウス)に移す。1835年から47年までカペルマイスター(楽長)を務めたメンデルスゾーンの手腕により大いに名声を高め、その後もニキシュ、フルトヴェングラー、ワルター、アーベントロート、コンヴィチュニー、ノイマン、マズアラが伝統に磨きをかけた。

歴史的な音楽家たちとの関わりは数知れず、ベートーヴェンの三重協奏曲とピアノ協奏曲「皇帝」、シューベルトの交響曲「ザ・グレート」、シューマンの交響曲「春」、メンデルスゾーンの交響曲「スコットランド」とヴァイオリン協奏曲ホ短調、ワーグナーの「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲、ブラームスの

ヴァイオリン協奏曲、ブルックナーの交響曲第7番など多くの傑作を世界初演している。

ブロムシュテットの後を受けて、2005年にはリッカルド・シャイーが第19代カペルマイスターに就任した。ライプツィヒ市での大コンサート、ライプツィヒ・オペラのレギュラー・オーケストラとしての演奏、トーマス教会での毎週のバッハ・カンタータ演奏、さらに世界各地での客演や録音など、多岐にわたる活動を続けている。



リッカルド・シャイー(ゲヴァントハウス・カペルマイスター) RICCARDO CHAILLY, Gewandhauskapellmeister

1953年ミラノ生まれ。作曲家の父ルチアーノの基礎教育を受け、ミラノ音楽院、アカデミア・キジアーナで学ぶ。1970年にアバドのアシスタントに迎えられ、1972年にマスネ「ウェルテル」を指揮して本格的にデビュー。1978年のスカラ座デビューで大成功を収めて以来、世界の超一流の歌劇場やオーケストラを次々指揮して、オペラとコンサート双方に活躍。特に1988年から2004年までロイヤル・アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団の常任指揮者として手腕を発揮した。

ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団とは1986年のザルツブルク音楽祭で初めて共演、2005年9月に同団の第19代カペルマイスターおよびライプツィヒ歌劇場音楽監督に就任した。

Gewandhaus
Orchester